

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (沖縄)	◎	一般小売店〔酒〕（店長）	・今後ゴールデンウィークに向かって、県外や国外からの乗客数は増えていくとみている。
	◎	コンビニ（経営企画担当）	・賃金上昇への期待と定額減税の効果により、消費は少しずつ上昇していくものと予測している。
	◎	観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの3月の販売室数が前年比14%減少なのに対して、3月末時点での6月の予約室数は前年比22%増加と、プラスに転じている。
	○	百貨店（経営担当）	・母の日のギフト需要やゴールデンウィーク期間の来店客増が見込まれる。
	○	コンビニ（経営者）	・暑くなってくると年配客の行動が活発になり来客数が増えるため、弁当やサラダ類の売上が期待される。また、観光客が増加してくるため売上は上昇する。
	○	家電量販店（営業担当）	・耐久消費財の買い控え意識は当面の間続くと予想しているが、上半期は生活必需品であるエアコン、冷蔵庫などの需要が高まるシーズンなので、需要は徐々に回復していくと考える。
	○	その他専門店〔陶器〕（製造）	・4月もイベントでは盛り上がりを感じるかもしれないとみているがそこまで変化はなく、観光客の影響を受ける客先においては5月に一気に動くかと予想している。
	○	一般レストラン（代表者）	・地元客の動きが良くなりつつある。観光客の増加もあいまっている雰囲気がある。
	□	スーパー（企画担当）	・2～3か月先は、新型コロナウイルス感染症の5類移行から1年たつことや、食品値上げも前年と比べると減少すると予想されることから、景気は落ち着き変わらないのではないかとみられる。
	□	コンビニ（店長）	・店舗の立地上、観光客数の増減で景気が上下するが、沖縄の観光特性が以前ほどの強みを持っていないため、右肩上がりには期待できないと考えている。
	□	コンビニ（副店長）	・新年度に期待はできるが、物価上昇と、世間で言う賃金伸長率が中小零細企業まで伴っておらず、経費負担増加も止まる様子もないため、真の景気回復のまだまだ道半ばとみられる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・今月は新しい季節で衣替えなど、いろいろ変わる時期ということで期待しているが、客の動きは思いの外良くない。時期的にまだまだ様子見だとみている。
	□	乗用車販売店（経理担当）	・イベントの集客や客の熱意も衰える様子がない。
	□	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・観光客も増えて、報道では賃上げも満額回答が続いているが、周りの客の状況をみると、財布のひもは固く、全く恩恵を受けていない。物価上昇、人件費増加、人手不足は続いており、単純な値上げでは対応できなくなっている。
	□	観光型ホテル（代表取締役）	・5～6月の宿泊客の予約は前年よりも伸びてはいるが、2019年には届いていない。飲食宴会部門も前年よりは動きがある。新型コロナウイルス感染症発生前の状況にはまだまだ届いていない。
	□	旅行代理店（マネージャー）	・物価上昇が落ち着くまでは、旅行への購買意欲はそこまで上がらない。
□	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注は前年割れの状況で、2月から予約が直近化にシフトしていることもあり、最終的には前年並みで推移すると予測している。	
▲	商店街（代表者）	・乗客数が少し増えている業種とまだまだ乗客数が少ない業種がある様子である。全体的にみるとまだやや悪くなっているように見受けられる。商店街に限ると、観光関連は良くなったような雰囲気はするが、その他はまだ厳しいとみている。	
▲	衣料品専門店（経営者）	・マイナス金利解除を行ったにもかかわらず円安が進み、物価上昇でも大半の国民の賃金は上がらず、また、燃料費の補助をやめるなど、先のみえない不安感が漂う社会のなかでは、景気が良くなるとは考えられない。	
▲	その他飲食店〔バー〕（経営者）	・客と話していても今後の景気に不安を感じている人が多いようである。明らかに景気が良くなるまで当面は金を使うことを控えて様子見という方が今後更に増えていく雰囲気がある。	

	▲	通信会社（営業担当）	・3月は学生需要が多く1年の最大の繁忙期であるため販売のピークとなっており、今後2～3か月は落ち着き、やや下り坂になると予想される。
	▲	住宅販売会社（代表取締役）	・マイナス金利政策の解除により住宅ローン金利などの引上げ予想があり、建築に関して客の心理的にマイナス要因とならないか懸念が残る。
	▲	住宅販売会社（役員）	・住宅価格の高騰に所得の伸びが追いついていない状況の最中で住宅ローンの先高観があり販売が苦戦しそうな雰囲気がある。
	×	—	—
企業 動向 関連	◎	食料品製造業（役員）	・ゴールデンウィークに向けて更に観光客の増加が続きそうである。円安の影響もあるかもしれない。
	○	*	*
(沖縄)	□	窯業土石業（取締役）	・原材料費の高騰に伴う価格転嫁はある程度進んでおり収益は回復傾向にあるが、今後は人件費増加や運搬費の値上げが予想され、再度価格交渉が必要とみられる。
	□	輸送業（経営企画室）	・日本銀行のマイナス金利政策の解除を受け、特に中小企業がどのような方向に進むか注視する必要があるとみられる。
	□	広告代理店（営業担当）	・県内企業の広告販売促進活動をみると、人件費高騰などの影響で事業収益が厳しいことから、やや消極的である。
	□	会計事務所（所長）	・国内外の政治、経済情勢が不安定であり、将来見通しが立たないため慎重に行動することとなる。
	▲	建設業（経営者）	・相談に来て、金利が上がる見通しでなかなか契約まで踏み切れない客が多い。
	×	—	—
雇用 関連	◎	—	—
	○	*	*
(沖縄)	□	人材派遣会社（経営者）	・社会が活発に動き、派遣や人材紹介についても増加しているが、人件費の増大や諸経費の高騰で単価交渉については要求までいかない。なかなか厳しい数字を出す企業が多い。
	□	人材派遣会社（総務担当）	・人の動きは活発になっているが、物価高騰に伴い景気は変わらないとみられる。
	□	職業安定所（職員）	・特に小規模の事業所において物価高の影響を注視している声も多く、賃上げができない企業も多いとみられる。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・IT系企業を中心に2月より多くの求人を頂いているが、今後は徐々に少なくなっていく見込みである。ただし、随時募集の企業が多いため、採用活動は積極的に行われ、景気としては良い状況のままに継続されるとみられる。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	・経済の流れが好循環と感じるまでには時間が掛かるとみられる。
	▲	求人情報誌製作会社（営業）	・今月を求人数のピークとして予測しているため、夏にかけて求人数は緩やかに減少すると予測している。
	×	—	—